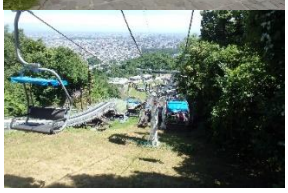
平成３０年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【札幌市】

１ 実践テーマ	【　Ⅴ　】
２ 実施対象者	札幌市立幌東小学校 第３学年　66名
３ 展開の形式	（１）学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（　　） ③ その他（　　） （２）地域における活動 ① イベント名（　　） ② その他　（　　）
４ 目標 （ねらい）	・雪国である札幌市のウィンタースポーツへの興味・関心を高める。 ・様々な冬の競技を知ったり、体験したりすることにより、自分たちが住んでいる雪国（札幌市）のよさに改めて気付く。 ・オリンピックへの興味・関心を高めるとともに、自分たちの心身の健康に目を向け、運動を楽しむ態度を育む。
５ 取組内容	○指導計画【１０時間扱い】 ・オリエンテーション 事前に札幌オリンピックについて調べる。 ・オリンピックミュージアムを見学する計画を立てる。 ・オリンピックミュージアムで体験をする。 ・オリンピックミュージアムで体験したことを「札幌オリンピック新聞」にまとめる。 ○取組の様子 見学するにあたり、オリエンテーションをし、オリンピックミュージアムの概要について事前に説明した。 当日は、平昌オリンピックスケルトン日本代表の宮嶋克幸選手の講演を聞いた。 次に、オリンピック選手が着用していたユニフォームやウェアー、用具、オリンピックのメダル等の展示物を見学したり、館内の施設を見学したり、ボブスレーやクロスカントリー、スケート体験をしたりした。 その後、宮嶋選手と一緒に大倉山ジャンプ競技場のリフトに乗り、展望台へ向かった。展望台から発展している札幌の様子を見学した。 最後に、展望台からオリンピックミュージアムに戻り、宮嶋選手と

	お別れの挨拶と握手をして帰校した。 　帰校後、見学したり、体験したりしたことを学習カードにまとめる。その後、「札幌オリンピック新聞」を作成し、まとめたことを交流した。 
６ 主な成果	・実際にオリンピックにスケルトンで出場した宮嶋克幸選手の講演を聞いたり、着用していたオリンピックのユニフォームなどを見たりすることができ、オリンピックが身近に感じることができた。また、宮嶋選手の講演の中で、「フェアプレーの精神」や「相手をリスペクトする」こと、「自分の限界に挑戦していく」こと、「努力することによって自分の限界を超えることができること」「用具を作ってくれる人やコーチ、家族に感謝を忘れないこと」など、オリンピックを通して感じたことを聴くことができた。夢に向かって頑張ろうという気持ちをもつことができた。 ・大倉山ジャンプ競技場にリフトで上り、展望台から札幌の景色を見ることで、発展した札幌を目の当たりにすることができた。 ・札幌オリンピックから時が経ち、札幌オリンピックについてよく知らない児童がこの事業に参加することで札幌の歴史に触れることができた。 ・その後、再び家庭でオリンピックミュージアムを訪れる児童もおり、オリンピックやウィンタースポーツへの興味や関心が高まった。
７ 実践において工夫した点	・今回だけではなくまたオリンピックミュージアムに行ってもっと詳しく調べてみたいという気持ちをもたせるように意識付けをした。 ・地域にオリンピックの施設が無いため、過去に札幌オリンピックが開催されたことについてあまり知らない児童もいた。当時の様子について事前に知る時間を設けた。
８ 主な課題等	・年度当初から活動計画が立てられるよう、前年度から事業申請等の取組が行われると望ましい。 ・時間的に館内で自由に過ごす時間が短く、十分に施設を見学したり、体験したりすることができなかった。
９ 今後の取組について	・コンピュータなどを活用し、更に札幌オリンピック当時の札幌の様子や競技のことについて調べる。 ・この事業で体験したことを生かし、冬期間の総合的な学習の時間で、「冬のオリンピック」として自分たちで考えた雪上での競技を計画して行う。